

滋賀県北部・余呉トレイルを歩く

<日程> (マイカーにて) 4月21日(土) 大阪 21:30—名神・北陸道・R365—
 栃ノ木峠(幕営) / 22日(日) 栃ノ木峠—中河内…庄野峰越…河内山…釈ヶ岳…
 栃ノ木峠—中河内へマイカー回収—須賀谷温泉—帰阪
<参加者>井上好司、井上眞由美、西本良夫、大西清見

<コースタイム> KONK 井上眞由美

6:15 パーキング スタート→ 6:20 登山道入口→ 8:15 池内山 646.8m→
 2個目の旗 8:55 しばらく迷ったところ→ 9:10 探していた北向きの尾根
 に入る→ 3個目の旗 10:05 歩きやすい道に出る→ 10:10 鉄塔下→ 718 付
 近で尾根に上がったが現在地ロストのちトラバースして踏み跡のある道に入る→
 11:55 リフト地点→ スキー場下(栃ノ木峠) 12:25

西本良夫(大阪ポッポ会)

今回のルートは「余呉トレイル」という名前がついているが、道標はゼロでテープもほとんどなく、踏み跡もあまりない道で読図練習という意味ではとてもいいコースだった。山道の幹や枝にいろいろな色のテープが付けられているとそれを追いかけてしまいが、今回は全くそういうことはなかったので「読図」に集中できて良かった。

出発前、自宅で地形図を見ながらコースをチェックすると、分水嶺の稜線を歩けばいいので比較的ルートはわかりやすいのかなと考えていた。尾根が狭いところは踏み跡っぽいところもありルートを取りやすいが尾根が広がってくると踏み跡は全くなく、ちょっとやぶを漕げばどこでも歩いてしまうのでどっちに行けばいいのか考えながら歩くことができた。また、目の前の尾根や谷を見ることも大事だが、少し遠くに見える山並みから山域全体を把握する必要があることも教えていただいた。

後半、北の尾根に入らないといけないところを間違えて北西の尾根に入り込んでしまった。どう進行方向を修正すればいいのかと迷っていると、井上好司さんが正しいところまで引き返すのを見て「えっ、そんなに戻るの?」と思ってしまった。間違った時にどうリカバリーすべきかも今後の課題だと思う。「間違ったと思ったら正しいところまで戻る」という基本があるが、こういう道のない山では戻るにも技術が必要だなと感じた。

山行中、現在地確認をしながら歩くのだが、どこを歩いているのかさっぱりわからないという時間があった。そういう時にスマホのGPSを使用したがとても心強かった。いざという時のためにもGPSを効果的に使用できるように、充電やアプリの準備もしっかりしておかなければいけないと思った。

井上眞由美（KONK）

4月21日午後9時30分、大阪労山・読図チームの有志は、大阪駅モンベル前に集合して木之本 IC 経由で栃ノ木峠へ（テント泊）。翌22日、中河内～河内山～靱ヶ岳～栃ノ木峠までの余呉トレイルで読図山行をしました。メンバーは大西さん（泉州）、井上好司さん（テンション）、西本さん（ぼっぼ）、井上眞由美（KONK）の4名で新緑が輝くブナの森を歩くことができました。

余呉トレイルは分水嶺なので尾根を外さず進んで行けばいいかなと思っていました。しかし、実際に歩いてみるとトレイルらしき道や雨水が流れるくぼみがあるもの、多くはほとんど踏み跡が無い所、コンパス頼りで尾根探しや藪漕ぎをしなければならぬ所など読図として課題が多いルートでした。事前に地形図を読んで、迷いそうで気を付けなければと思っていた箇所は、やはり現地でも難しくみんなで目指すルートを考えてのでした。4人それぞれの読図スタイルで、地形を重視してルートを探したり、現地在をロストすればまわりの地形を探り正しい方向を考えたり、地形図で広く地形をとらえ谷と尾根を把握していくなど、様々な試みで歩いて行きました。

私は地形図を細かく読みたいので、いつも1/10,000に拡大して尾根や谷を細かく書き入れ、間違いやすい地点での進む方向を先にメモしておきます。現地在がよくわからなくなると、来た道を引き返しもう一度考えたいからです。正しい道を考えても間違えた場合、周辺をさ迷ったり周回したりして時間のロスが大きくなります。

地形図を読む場合、地形図と周辺の地形をよく見て、大きくとらえることの大切さを教えていただきました。要注意の地点は、今まで歩いてきたルートで、さらにまっすぐ先に尾根が伸びている場合、自分が行きたい方向を変えていく場合です。広い尾根が広がっている場合は、進むべくルートの判断が難しくなります。藪が広がり、茂った樹木で周りの地形が見にくい地点では、等高線をしっかり読み、コンパスも活用していく必要があります。

今回の山行のように縦走する場合は車は2台必要と思っていましたが、大西さんのヒッチハイクで車を回収するという発想には驚きました。この日は国道365線は栃ノ木峠で福井県側へは冬季通行止めになっていましたのでヒッチハイクは難しいかなと思っていましたが、運よく山菜採りで名古屋から来られている方にらせていただきました。大西さんによると、このようなヒッチハイクの成功率は99%だそうです。

帰りに戦国時代から伝わる小谷山山麓の須賀谷温泉に浸り、汗と汚れを落としさっぱりして大阪に向かいました。同じ趣味の仲間との山行はとても楽しかったです。ありがとうございました。